

Fusyo Collaboration letter

11月14日 No.32 文責 廣田 秀俊



「どうやって作る?」「こうやって作ったよ」

『土台や柱を丈夫にする方法を考えよう』のめあてで図画工作の時間が始まりました。4年生の作成している“コロコロガーレ”。ビー玉を面白く動かすための技や工夫を見つけながら工作を続けていきました。

10種類以上の＜素材＞を使用しながら、土台作りのために、段ボール・紙コップ・割り箸など、丈夫なものを選択していきます。土台となるものを斜めに貼り付けたり、丸めたり、材料を増やしたりする工夫を確かめ、完成形を想像しながら作業を進めていきました。

まずは【今日すること】を一人一人がiPadに書き込み始めます。「土台を完成させる」「折ったり丸めたりして丈夫な土台をつくる」「柱の素材を段ボールにして強くする」「友だちが発表してくれたことを参考にして土台をつくる」など、たくさんの思いがあふれていました。

この日は段ボールカッターも使用します。刃を出しすぎないこと・切る線と一直線にすること・机やイスで押さえることなどの注意も聞きもらさないように、手順を理解していきました。

ペットボトルキャップを何個も積み重ねている子・紙コップを土台として接着する子・柱を4本つけて作業している子・ストローを細かく刻んでいる子・友だちと相談しながら組み立てている子・説明書を読み直す子など、それぞれが自分の作業を黙々と進めていました。

作業時間も中盤に入って、中間のふり返しをしていきました。「いまどんな感じ?」なのかを班の仲間と確かめ合いながら対話をしていきます。「柱4本がうまくつけられそう」「ビー玉がスタートから転がっていく階段を改善中」「今、頭の中にアイデアがあって、そのことを一つずつ実行している」「割り箸を土台に使ってみた」等、現況を報告していました。

「このあとどうしようか?」と仲間とともに話し合いを続けます。「落としたりしたところからビー玉が出てこないかかけをどうしようか」「2階を建てたいのでその土台をつくっていく」「土台の足の部分の接着を広くして丈夫にしていく」等、提案したことを手掛かりに、次へと進みます。

一つ素材をつけ加えるごとにビー玉を転がしてみる子・先生に途中経過を報告する子・みんなの話を聞いて土台の補強を進めていく子。まだまだ時間をかけて作成していきます。

この時間のふり返しとして工夫やアドバイスし合ったことを発表していきました。「平らな土台に丸い筒で重さを分散させた」「作ったものに紙を巻いて見た目をよくした」「はしごの間からビー玉が落ちないように紙をはさんだ」「柱が丸いと上にのせやすいと教えてもらった」など、参考にできる意見を次の時間の実践につなげていきます。

